

# ノーリターン

作 廣野浩二

高速バスの中

運転手 (マイクを持って) アーアー、大変ご迷惑をおかけしております。ただ今高速道は事故のため渋滞しております。もう少々ご辛抱ください。

客 2 (後ろから) 全然進まないじゃないのー

客 1 すみませーん運転手さん、東京駅着は何時頃になるんですかね？

運転手 あ、はい…ナビによると、6時14分着でございます

客 1 はあ、でもそれって、このまま渋滞が続くともっと遅くなるんじゃないんですか？

運転手 いえ、そんな事は、あつ、6時21分になった！

客 1 やっぱりな

運転手 へえー、ナビってそうなんだー

客 2 運転手さん、私ね、8時30分には会社に着かないと、仕事上ちょっと困るんですけど、大丈夫ですか？

運転手 大丈夫だと思います、ナビでは6時…あ、32分になりました！

客 2 ええーっ

客 3 これじゃあ、何時に着くかわかんねえなー(うすら笑っている)

客 2 運転手さん、何とかしてよ

運転手 いやー、そう言われましても…

客 1 いっそ、一般道に降りちゃった方が早いんじゃないですかね？

客 2 そうよ。ねえ、そうしましょうよ

運転手 いやーでも、

客 2 すみませんー、ねえー、ちょっとあなた！(と後ろの方へ声をかける)

客 3 何だよ

客 2 このまま待つより、一般道に降りた方が良くと思うんですけど、どう思います？

客 3 一般道？ まあ、なんでもいいよ、俺は着きゃあ良いんだ(あくび)

客 2 じゃあ、決めますね。(運転手に) はい、決まり

運転手 あれ？おかしいなあ…

客 2 何よもう、決まりでしょ？ 全員一致なんだから

運転手 いや、…お客さん三人しか居ませんか？

客 2 見たらわかるでしょう

客 1 いや、居た。さっきまで4人いたよ！

運転手 ですよ

客 2 えーっ？

客 1 居ましたよ、紫色の服を着たおばちゃん、というか、おばあちゃん…

いや、おじいちゃん？ あれ、茶色い服だったかな？

客 2 そう言われると…

客 3 みどりの服着たお姉ちゃんならここに寝てるぜ

三人 えっ！（客1と2、後ろへ）

客 1 ほらー、やっぱりいた。緑色の服の…

客 2 …なんかうなされてる。 ねえ、あなた！

客 1 起こすんですか

客 3 寝かせといてやれよ

客 2 ねえ、ちょっと？

客 1 起きないですね

客 2 でも声は掛けたので、（前へ）さあ、全員一致で決まり

運転手 はあ

客 2 さあ、ナビで検索して、一般道のルート。

運転手 あ、その前に会社に

客 2 あっそ

運転手 （通信機で）もしもし…もしもし…

客 1 …きれいな人だな

客 3 キスすると起きるかもよお

客 1 な、何言うんですか、僕そんなこと…（前へ）

客 3 へへへ

運転手 もしもし…おかしいな？

客 2 何！

運転手 ……出ないんです、会社

客 2 つまりそれは、こっちで決めろって事じゃないですか

運転手 いや、そうじゃなくなつて、そもそもこれが通じないんです

客 1 通信機、壊れちゃったんですか？

運転手 そうみたいですよ、どうしましょう？

客 1 ここ、電波状態が悪いんですよ。さっきスマホも調子悪かったし

客 2 とにかく、一般道に降りて。私遅れたくないの、ね！

運転手 会社に報告なしですか…

客 1 お願いです、僕も遅れると困るんです。大事な面接があるんですよ！。

あー、7時7分になつてる！

運転手 うわー

客 1 このままだと絶対間に合わない！

客 2 ねえー、早く降りてよ運転手さん！

客 3 うるせえなー、はやくしろよ、寝られねえんだろ！

運転手 わ、分りました。そうします。はい！

と思い切りハンドルを切る

ナビの声 一般道を行くルートに変更しました

音楽

バスの走行音

客は席に座っている

ナビの声 この道路を、5キロ以上道なりです

客 2 ちょっと運転手さん？

運転手 (びくつとして) は、はい！

客 2 おかしくない？ このルート。

運転手 いやー、そんなことはないと思いますけど…

客 2 おかしいでしょ、この道絶対おかしいですよ。だんだん細くなるし、ガタガタ道だし、真っ暗で明かり一つ無くて。どんだん山に入って行ってる様な気がするんですけど

運転手 抜け道なんてこうゆうものだと思いますけどね…

客 2 だいいち、ほかに車が一台も来ないってあり得ないでしょう？

東京へ行くんですよ、白神山地に行くんじゃないのよ！

運転手 走行中は運転手に話しかけないでください

客 2 えーっ！

客 3 おばちゃんよー、あんまり運ちゃんをいじめんなよな

客 2 だって、変でしょう、この道！

客 1 あれえ？

客 2 何よ、あんたまで？

客 1 僕のスマホがない！ って言うか荷物がない！

客 2 何言ってるんだろ、この人。(座席に戻り) あれ、あたしのバッグ？ (客3を睨む)

客 3 何だよ？ なんだあ、俺がガメたとでも言うのかあ？

客 2 だって他にいないでしょ

客 3 笑わせんな、おめえのチンケなバッグなんか、誰が

客 2 チンケなバッグとは何よ、れっきとしたブランド物よ！

客 3 けっ、ブランド物ってのはなあ、こうゆう腕時計を…。あれ？ おれの

ロレックスが！

客 1 えっ？

客 3 てめえー、〔胸ぐらつかみ〕俺が寝てる間にー

客 1 ちょ、ちよっとー

客 3 出せ、俺のロレックス！ 出せよ！

客 1 苦しいー、

客 2 よしなさいよ！

運転手 やめてください！

客 3 あれはな、お婆ちゃんが死んだとき、葬式代を踏み倒して買った思い出のロレックス  
なんだよー

客 1 盗ってない、盗ってない

客 2 離しなさいってばー

客 3 ババアは引っ込んでろ！

客 2 あたしのコウちゃんを離せー

客 3 えっ!?! (離す) なんだあ、お前ら。出来てんのか？

客 2 何よ、出来てちゃ悪いの？ こんなババアと大学生が恋したらおかしいの？

客 3 ああ、おかしいねえ、ババアと学生が東京でおデートかよ？

客 2 そうよ、デイズニールランドよ、スプラッシュ・マウンテンよ！

客 1 止めるよ、ミヨちゃん

客 2 山形の街中じゃ、手をつないでも歩けない、だから東京でデートよ

客 3 デイズニールランドは千葉じゃ、ボケ！

客 2 どっちだって良いのよ！ 山形でさえなかつたら！

客 3 俺もどっちだっていいわ、ロレックスさえ出りゃな！

客 2 だから知らないって言ってるでしょう！

運転手 (マイクを持って) 危険ですから、座席にお戻りください

客 3 やかましい！ もとはと言え、てめえのせいだろうが！ (前へ)

客 2 そうよ、(客1と共に前へ) いったい、いつになったら東京に着くのよ！

運転手 ええーっ

ナビ 間もなく目的地周辺です

みんな えっ！

ナ ビ 目的地に到着いたしました お疲れ様でした

運転手 ……着きました

客 1 着いた

客 2 うん、着いた

客 3 着いたな

みんな 着いたー！

運転手 ああ、良かったー(泣く)僕、一人で長距離、初めてだったんですよー同乗するはずの先輩が、前の晩の酒が残ってて…急に一人で行けって

客 2 ここ、どこ？ 東京？

客 1 な訳ないよ、真っ暗じゃないか…

客 3 おい、運転手、どこだよ？ 俺達をどこに連れてきたんだ！

運転手 ……東京です、ここが東京です。ナビがそう言ったんです

客 3 おまえ、馬鹿か？ どう見たって違うだろう！

客 1 ああー(泣きくずれる)

客 2 ここが東京なら、東京タワーはどこよ。スカイツリーはどこにあんのよ？

運転手 ですから…きつと、ビルで陰で見えないんですよ

客 3 じゃあ、そのビルはどこにあるんだよ！

運転手 だから…それは、霧で見えないんじゃないですか

客 3 霧なんか出てないだろうが！

霧が出てくる

客 1 霧だ…

運転手 ほら、ね。だからここは東京ですよ

客 3 あれえ？

客 2 何ですか？

客 3 いない、ここに寝てた若い姉ちゃんが消えた！

客 2 先に降りたんじゃない

運転手 まだ、ドア開けてませんが

客 3 こりゃあ血じゃねえか？ シートにべつとり

客 2 嘘でしょうー！

客 1 と、とにかく外にでたほうが…

客 2 うん

客 3 とつと、とドアを開けろ！

運転手 は、はい

ドアがぶしゅーと開く

客 3 あれ、お前の彼氏、どこ行った？

客 2 ええーっ、あ、どこ？ コウちゃん、どこー、やだあー、コウちゃんー！（探しに行く）

客 3 おい、行くなー、戻ってこーい！

霧が濃くなってゆく

客 3 どうなってんだよ、何なんだよこれ？なあ、運転手。もう一度ナビに東京入れてよ…

あれ、運転手…（外に出る）いない！

おーい、運転手ー、どこだよー…俺ひとりかよ（バスに戻ろうとして）え？バス。

どこだ、どこにいったんだ！…俺は…俺は…どこにいるんだ。

ラジオのニュースが流れてくる

「昨夜の高速バスの事故で…ざざざ…残りの4人の男女については死亡が確認

されましたが…（雑音）」



愕然とする客3

暗くなって行く

幕